

気象庁の地球環境業務が目指すべき方向

国内外の近年の情勢

地球温暖化をはじめ、地球環境問題が顕在化・深刻化

地球温暖化対策の検討が加速

- IPCCの第4次評価報告書
気候システムの温暖化は、人為起源の温室効果ガスの増加が原因である可能性が非常に高い
- 「京都議定書」以後の新たな枠組みについて、国際的な議論が活発化
- 地球温暖化による影響・被害を軽減するには、適応策の適切な策定・実施が必要
- IPCCの第5次評価報告書(平成25年度刊行見込み)に向けた検討開始

広域の大気汚染など新たな地球環境問題が発生

- アジア各国の経済発展や植生の変化
 - ・広い範囲にわたる黄砂の飛来による大気汚濁
 - ・西日本を中心に光化学スモッグの発生増加
- 対策に向けた検討が急務

平成20年6月気象分科会 「今後の地球環境業務の 重点施策」

重点的に推進する施策分野

- 地球温暖化の監視・予測情報
- 季節予報と異常気象の情報
- 黄砂・広域大気汚染等の環境気象の情報

施策遂行上の留意点

- 衛星、観測船等の観測の維持・強化
- 利用者にとって“使いやすい情報”の提供
- 国民への知識普及・幅広い広報活動
- 関係省庁・機関との連携強化
- 国際的な活動や途上国支援への貢献
- 大学・研究機関との交流の推進

施策		情報の充実・改善の方向性 (Plan → Do)	実施・進捗状況 (Do)
地球温暖化	監視情報 (温室効果ガスの監視)	<ul style="list-style-type: none">・ 全球大気の大気中の温室効果ガスの三次元的な濃度情報の提供・ 海洋における二酸化炭素蓄積量、大気－海洋間交換量の解析・提供	21年2月に地表分布の提供開始、継続開発 22年度からの提供開始予定
	予測情報	<ul style="list-style-type: none">・ 不確実性を低減させて全球の地球温暖化予測情報の提供・ 近未来の我が国の地域的な予測情報の提供	23年度に提供予定(気象研と連携して実施)
	我が国の現状・見通しに関する科学的知見	<ul style="list-style-type: none">・ 「異常気象レポート」の拡充・公表・ 関係省庁の統合レポートの公表・ ホームページ等による知識の普及活動や利活用の推進	24年度までに提供予定 21年度に提供予定 継続・強化
環境気象	大気汚染への対応	<ul style="list-style-type: none">・ 広域の大気汚染にも対応したスモッグ気象情報の提供	21年度中に地上オゾン予測図の提供開始 22年度以降継続開発
	黄砂情報	<ul style="list-style-type: none">・ 環境省ライダーデータの活用による黄砂情報の精度向上	23年度に改善予定
	紫外線情報	<ul style="list-style-type: none">・ 時間的・地域的にきめ細かな紫外線予測情報の提供	24年度以降の提供開始予定

18年度

<チェックアップ>

中期目標(H19~23)の設定

<目標> 地球環境に関する気象情報について、
各年度に3件の改善または新規の情報提供を行う

(毎年度) ⇕

評価、取組の見直し

- ・ 観測・監視の強化
- ・ 気候モデルなどの開発・高度化
- ・ 関係機関との連携・協力
- ・ 国際協力

<満足度調査> (23年度頃)

地球環境に関する気象情報

<レビュー> (23~24年度) 地球温暖化の観測・監視など

<チェックアップ>

新・中期目標(H25~)の設定

<目標> 地球環境に関する気象情報について、
.....

IPCC第5次報告書
(第I作業部会)

25年度公表

25年度